



【雲母摺り】
きらざり

企画展

はじめての 古美術鑑賞

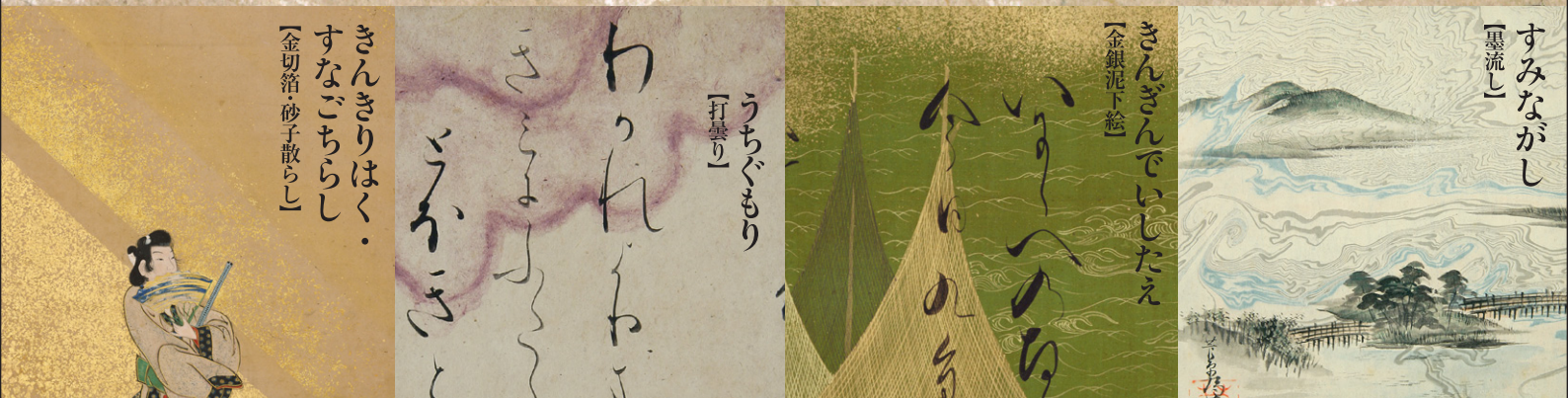
紙の装飾

根津美術館では、平成29年5月25日(木)から7月2日(日)まで、「はじめての古美術鑑賞 一紙の装飾」(開館日数34日)を開催いたします。

日本の古美術はなんとなく敷居が高いという声にこたえて、根津美術館では昨年「はじめての古美術鑑賞 一紙の装飾」と題して、近世以前の日本絵画の技法をやさしく解説する展示を試み、好評を得ました。今回はシリーズの2回目として、「読めない」という理由から敬遠されがちな書の作品にアプローチする一つの方法として、書を書くための紙すなわち料紙の装飾に注目する展示を企画いたしました。

豪華に装飾された写経や贈答用にあつらえられた歌集は、たとえそれが一部分であっても鑑賞に値するものであったために、切り取られて掛物に改装されたものが数多く今に伝わっています。華麗な色や金銀あるいは雲母によるさまざまな装飾技法を、当館コレクションの作品を中心にわかりやすく解説するとともに、絵画に取り込まれた例もご覧にいたします。

この展示会が、書の作品に親しく接する機会となり、さらにはより深い古美術鑑賞への足がかりとなれば幸いです。



きんきりはく・
すなごちらし
【金切箔・砂子散らし】

うちぐもり
【打曇り】

きんぎんでいしたえ
【金銀泥下絵】

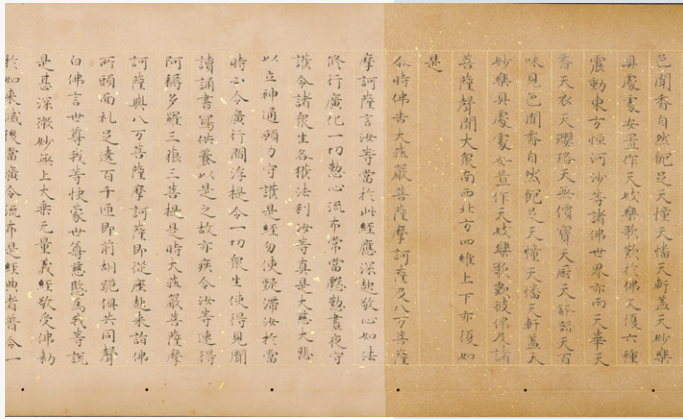
すみながし
【墨流し】

Technique and Expression
in Traditional Japanese Art: Decorated Papers

2017年 5月25日(木)～7月2日(日)
【休館日】 毎週月曜日

はじめての 古美術鑑賞

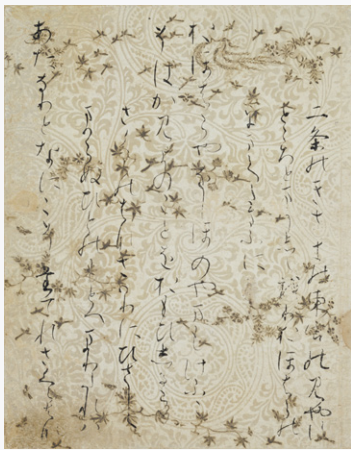
紙の装飾



無量義經 1巻 彩箋墨書
日本・平安時代 11世紀
根津美術館蔵

【引染め／金切箔散らし／金泥界】

濃淡の茶色に染めた紙を交互に継ぎ、細かく切った金箔を散らす。罫線は金泥(金粉を膠で溶いた絵具)で引く。文字も紙も高雅な名品。



尾形切 伝藤原公任筆 1幅 彩箋墨書
日本・平安時代 12世紀
根津美術館蔵

【具引き／雲母摺り／銀泥下絵】

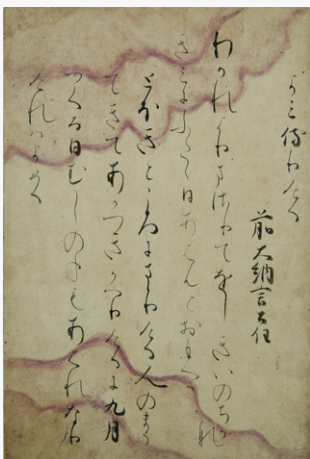
具は胡粉(貝殻を原料とする白い絵具)あるいは胡粉に色をまぜたもの。これを紙の全面に塗ることを具引きという。雲母摺りは雲母の粉を膠で溶いて木版で摺り出すこと。さらに銀泥で小鳥などを描いている。



紫紙金字華嚴經 1枚 紫紙金字
日本・奈良時代 8世紀
根津美術館蔵

【浸染め／銀泥界】

紫の染料に何度も浸して染めた濃い紫色の料紙に銀泥で界を引き、金泥で経文を書写する。古代より紫は高貴な色とされ、金泥がよく映える。



八幡切 伝飛鳥井雅有筆 1幅 彩箋墨書
日本・鎌倉時代 13世紀
根津美術館蔵

【打曇り】

藍色または紫色の繊維を漉きかけて、集まり群がる雲のように見せる技法。打曇りをほどこした紙が雲紙。藍と紫を上下に配した料紙もある。



百人一首帖 智仁親王筆 1帖 彩箋墨書
日本・江戸時代 17世紀
根津美術館蔵

【具引き／金切箔・砂子散らし／金銀泥下絵】

まず紙を染め、金銀泥で下絵を描き、さらに金の切箔・砂子を撒いている。多種の装飾技法を複合的に用いることは少なくない。

きんきりはく すなご
【金切箔・砂子散らし】

箔を小さく切ったものが切箔、さらに微塵にしたものが砂子。霞や雲をかたどって撒くこともある。書の料紙装飾を絵画の背景に見立てた作例。



重要美術品 ふうぞくす 風俗図
3幅 紙本着色
日本・江戸時代 17世紀
根津美術館蔵

同時開催

展示室 5
や 焼 し 締め とう
焼き締め陶

釉薬を掛けずに、約1300℃の高温で焼くことで、素地を硬く固める「焼き締め陶」。造形の力強さと産地ごとの土の魅力をご覧ください。



うずくまるはなはいれ
蹲花入 信楽または伊賀 1口 無釉陶器
日本・室町～桃山時代 16世紀 根津美術館蔵

日常で使用されていたと考えられる壺を花入としたもの。檜垣文が刻まれた胴は赤く焼け、青緑色に発色した自然釉が一部に流れ落ちている。



かたつきちやいれ めんべき
肩衝茶入 銘面壁 備前 1口 無釉陶器
日本・桃山～江戸時代 17世紀 根津美術館蔵

備前焼茶入は茶の湯の草創期である16世紀中期より用いられていた。この茶入は篋目など17世紀初期の桃山の造形が加えられたもの。

展示室 6
りょう いち み
涼一味の茶

蒸し暑いこの季節、茶の湯では道具に工夫を凝らし、清々しさを演出します。涼感をもたらす茶道具約20件の取り合わせ。



しよんずいりゆうひさごがたとつくり
祥瑞瑠璃釉瓢形德利 景德鎮窯 2口 施釉磁器
中国・明時代 17世紀 根津美術館蔵

型押しで七宝文や毘沙門亀甲文などがあらわされた祥瑞の瓢形德利。総体に掛けられた瑠璃釉は鮮やかな藍色に発色している。



あおいどちやわん りょうきゆう
青井戸茶碗 銘涼及 1口 高麗茶碗
朝鮮・朝鮮時代 16世紀 根津美術館蔵

胴部が直線的に開く「青井戸」に分類される井戸茶碗。口縁部の歪みと大きな高台が目を引き。銘は江戸時代の医師・有馬涼及旧蔵に因む。

関連プログラム

講演会 「北川一成がみる紙の装飾」
日時 6月17日(土) 午後2時～3時30分
講師 北川 一成 氏 (グラフィックデザイナー)
会場 根津美術館 講堂
定員 130名

(申し込み方法) 当館ホームページの「イベント情報」の申込みフォームから、または往復はがき(1参加者につき1枚)に参加を希望される講演会名・住所・氏名(返信面にも)・電話番号を明記の上、〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1 根津美術館講演会係宛にお送りください。
※先着順で定員になり次第締め切らせていただきます。

スライドレクチャー 日時 6月9日(金)、6月23日(金)
会場 根津美術館 講堂
定員 いずれも130名

- ・担当学芸員より全体の見どころを、それぞれのテーマで解説いたします。
- ・各回とも午後1時30分より45分間程度。開始の15分前より開場。

※先着順で定員になり次第締め切らせていただきます。

次回展



重要文化財 青花花卉文盤 景德鎮窯 中国・明時代 15世紀
根津美術館蔵

企画展

やきもの勉強会 —大皿と小皿—

2017年7月13日(木)～9月3日(日)

時代や産地が異なる様々な皿を、特別な器と日用の器を取り合わせてご覧いただけます。

開催概要

展覧会名 企画展「はじめての古美術鑑賞 一紙の装飾」
主催 根津美術館
開催期間 2017年5月25日(木)～7月2日(日)
開館時間 午前10時～午後5時
[入館は午後4時30分まで]

休館日 毎週月曜日
入館料 一般1100円(900円) 学生800円(600円)
()内は20名以上の団体料金、
中学生以下無料

前売券 一般900円 学生600円
※2017年4月12日(水)～5月14日(日)「燕子花図と夏秋溪流図」展開催期間中、根津美術館ミュージアムショップにて販売
地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線(表参道) 駅下車A5出口(階段)より徒歩8分、B4出口(階段とエスカレーター)より徒歩10分、B3出口(エレベーターまたはエスカレーター)より徒歩10分

アクセス
住所 〒107-0062 東京都港区南青山 6-5-1
お問合せ TEL 03-3400-2536 (代表)
<http://www.nezu-muse.or.jp>